

## 山車と街並みが形成する環境ユニットの研究

吉村 靖孝／早稲田大学創造理工学術院教授

### ■研究の背景

全国に祇園祭の名を冠して山車巡行を行う祭りが60以上あるが、山車のデザインはひとつとして京都のそれと同一ではない。街ごとに異なるということは、その差異をもたらす要因として、その街の気候や地形、あるいは街並みなど地域に固有の条件が作用しているものと推察できる。本研究では、そういった意匠的なカスタマイズが適用される以前の原型として祇園祭の山鉾に着目し、京都の街並みと山鉾の形態・規模・機構の関係を調査・分析・考察する。

### ■研究の内容

□フィールド・サーヴェイによる環境ユニットの抽出

山鉾の建て方がはじまる時期から巡行まで断続的に山鉾町のフィールド・サーヴェイを行った。また北観音山の山建て期間中に、建て方のプロセスと会所の内部を取材する機会を得た。その際、京都の街並みには祭のための空間やディテールがあらかじめ埋め込まれていることを知った。そしてそういった「ハレの痕跡」は、特に山車の形態・規模・機構と深く関係しており、現代の都市と過去の都市との相違や矛盾を可視化していると考えようになった。本研究では、そういった山車と街の一对の関係を「環境ユニット」と呼び記録した。調査で得たユニット6組を列挙のうえ、その内容を詳述した。（要約版では割愛）

環境ユニット①「高い真木・真松」と「分断された電線」

環境ユニット②「四隅の柱」と「道路上の四つの礎石」

環境ユニット③「2階建ての山鉾」と「2階建ての会所」

環境ユニット④「長刀鉾」と「四条通りアーケードの開閉機構」

環境ユニット⑤「山鉾町（両側町）」と「条坊制」

環境ユニット⑥「1956年巡行ルート変更」と「御池通・河原町通の幅員」

### ■まとめ

環境ユニット①～⑥の観察と考察により、山車の形態、規模、機構は、京都の街並みと互いに呼応していることが明らかになった。また現代の平時の街並みに残る祇園祭の「ハレの痕跡」が、単に祭の残り香であるだけでなく、かつての街並みとの不整合を伝える暗号となっていることも判明した。今回は京都の祇園祭について記述を試みたが、今後ほかの地域に残る山車を調査・研究することで京都との差分が明らかになり、街並みとの関係をより正確に記述することが可能になるだろう。「山車と街並みが形成する環境ユニット」を記録し、ひ

とつひとつ解き明かしていくことで、街並みのどの部分をどのようなかたちで次世代に残すべきか、その指針の醸成につなげたい。